

下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：黒井公民館 多目的室 2
2. 日 時：令和 7 年 7 月 15 日 19：00～20：45
3. 参加人数：20 名（教育委員会を除く）
4. 主な質疑

■参加者

計画概要の 5 番に適正化の対象校区の保護者や地域住民との意見交換等によりとある。川棚地区に住んでいるが川棚地区ではこの会議がないので、不思議に思って本日来てみた。それはどういった理由があるのか教えていただきたい。

□教育委員会

適正規模・適正配置に関して地元の説明ということで、川棚小学校区ということで個別にしていない。統廃合の組み合わせの中で、学校が廃校になるということころを重点的にした関係で、結果としては申し訳ないが川棚校区ではできなかった。

■参加者

全然理由になっていないと思う。結局、なぜ川棚でしないのか。地域の住民と意見交換をすることになっているにもかかわらず、川棚が除外された。自分は川棚に住んでいて、1 歳 9 ヶ月の子供がいる。そこで、先々統合されるというのであれば、いろいろな地域の人に来るようになると思う。学校の活動は、そこに住んでいるからパッとできる。子供が少なくなっているが、そういった地域の関わりは、その近くに住んでいるからできると思う。

川棚地区だと宇賀と小串。小串だとこちらは近めになると思うが宇賀だったら、みんな車で行くのかとか、逆に宇賀の子はどうやって川棚に行くとか、そういうのがどうなのかなと思うので、川棚に住んでいる人たちの意見もこの話し合いをするというベースであれば、会場に上げるべきではないかなと思って質問させていただいた。

□教育委員会

校区が5つある中でやっていないというのが事実なので、意見を真摯に受け止める。

■参加者

小中一貫になったときの学校の位置について、誠意小と豊洋中と書かれているが、同じ校舎ではなく違う校舎で、吉見みたいにとということか。

□教育委員会。

形式で言うと小中一貫校という学校のあり方は、施設一体型、隣接型と、分離型というのが大きく3つ。実際、今回提案するのは分離型。実例で言うところの春に開校した吉見小学校と吉見中学校のよしみ小中学校のパターンを想定している。

■参加者

以前の説明会で、小中一貫校で豊洋中学校に統合されると聞いていたが、いつ誠意小と豊洋中に分かれたのか。その間の説明は全然聞いていない。

□教育委員会

今回4期計画ということで、改めて全市内の適正規模・適正配置を新しい計画として考えた。今回、特に小規模になってしまっている学校、小学校でいうと複式学級で学級運営、学校運営をしている学校について、小規模の学級学校でできないことが出てくるという課題を早く解消すべきということを重視した。小中一貫校は、3期計画のときは施設一体型ということで豊洋中という提案をしたが、今の豊洋中自体は大きい校舎ではないので、それに関しては増設等の校舎整備が伴う。施設の整備に関しては引き続き時間がかかるとしており、それに対して小規模化はずっと進んでいる。室津の複式学級を早く解消するために、まずは誠意との小学校の統合を速やかに行って、分離型の小中一貫教育に取り組んでいくというのを、この4期計画を考える中でそのような判断をした。

■参加者

前回小中一貫を決めたときに、決まったということを豊洋中学校の校長先生が後から聞いてびっくりしたという話を聞いた。市教委は、本当に先生や児童生徒の意見を聞いた上で計画を考えているのか。この前向洋中学校区の方にも参加したが、とにかく小規模校・複式学級は良くないのだというふうに印象を刷り込みされているように思う。文科省等あるいは教育機関が出した研究結果の中

で、複式学級や小規模学校が児童生徒の学力、それから議会答弁の中では規範意識にも問題があるようなことを確か言われたと思う。そういう研究結果があるのか。自分は25年間教師をしてきて、大規模校の方がはるかに問題を抱えた生徒が多く、規範意識に関しては自分が勤務したすごく小さな学校は素晴らしい学校だったので、何をもって学力、規範意識が劣ると言っているのかデータを示してほしい。

□教育委員会

下関市のデータはない。小規模校には小規模校のよさ、大規模校には大規模校の良さがあり、その反面でそれぞれに課題があると思っている。

統合によって大規模化を果たしたいというわけではない。大規模校の課題は、これはこれでやっていかないといけない。小規模校の特に複式学級をやっている学校においては、それを望んでやっているわけではないので、基本的には1学年の学級、複式学級でない形で授業ができる環境が望ましいと思っている。

■参加者

どういうデータに基づいて言っているのか。全国的なデータがあるから言っているのか。うそを言っているのか。

□教育委員会

大規模校・小規模校それぞれに良さがあるのは理解している。小規模校の課題も皆さんの協力によって一生懸命学校運営をしているので、どこの学校でどういうふうな問題があるというわけではない。ただ一般論で言えば、国が出している調査結果があり、その中で指摘が出ているのが、例えば小規模校においてはクラス替えが全部または一部の面でできない、あるいはクラブ活動等の種類が限定される、体育科の球技や音楽科の合唱合奏の集団学習の実施、グループワーク等に支障が生じる。このような文科省のいろいろな研究の結果が出ているので、こちらをもとに計画をしている。

■参加者

文科省は小規模の学校をつぶさないようにというのを確か通達を出している。小規模の学校が団体競技ができない。しかし、大規模の学校だったら例えばドッジボールひとつとっても、試合はできるかもしれないが20人の中で活躍できる子はごくわずか、1年、1ヶ月やったとしても、能力が伸ばせるかどうかはすごく曖昧。まるで子供たちのことを考えているような言い方をするのが許せない。

何で小規模校の子供たちの状況は必死になって改善して、問題があるって言われた大規模校はほったらかしなのか。人数もはるかに多い。

□教育委員会

ほったらかしにしているということではない。

■参加者

では具体的に何をやっているのか。

□教育委員会

大規模校は大規模校なりの問題に取り組んでいる。

■参加者

保護者を実際に呼んでこんなふうに話しているのか。学校を分割するのが当たり前。人数が多いから問題であればその人数を減らすような方策をとっているのか。

□教育委員会

もちろん大規模校についても適正規模はある。

■参加者

それはそちらが決めた適正規模。宇賀の子供も室津の子供も地域の中で守られてすごくいい教育をしている。内日の教育がよかったと、この前、教育長が答弁している。今同じような状況にある宇賀や室津を何で潰す必要があるのか。

□教育委員会

教育委員会の考えとしては、小規模校よりも一定程度の規模を持った学校の方が適正であるという考え方を基本として説明させていただいている。

■参加者

その適正なデータを示してほしい。

□教育委員会

数値的なデータはない。

■参加者

想像に基づいてなのか。国の基準なら、それは国が勝手に決めた基準。私が言っていることがおかしいというのか。

□教育委員会

教育委員会としては複式学級を解消したい。

■参加者

なぜ複式学級がいけないのか。

□教育委員会

良さはそれぞれあるが、小規模校の方が改善しなければならない問題点がより多いと理解している。

■参加者

複式学級が悪かったという話がどこにあるのか。

私の教わった先生は、複式学級の生徒は少ない人数が同じことを2学年にわたって勉強できるからよく学力がつく、35人いたら1回教えて回るのに回り切れないけれど、複式学級だったらその4人のことを相手にできるから、すごく学力がつくと言われた。何が問題になるのか。

□教育委員会

学力だけの問題ではなく、多様な人間関係であるとか、友達の少なさ、それからクラブ活動や球技、そういったところが軽減される。そういったところに課題があると考えている。

■参加者

小学校は部活はない。

□教育委員会

自分は元教員で複式学級を持ったこともある。

今、ここで語られているように複式学級は大変良さもある。1人の教員が2つの学年を担当するということで、1つの学年学級の中に2つの学年が入っているので、片方の学年例えば6年生が算数を学習しているときに、5年生も同じ算数の学習していて、隣で学習している内容が耳に入ってくるので、6年で5年の学習の学び直しができるし、5年生は6年生の学習を聞いているので、そ

ういえば隣でそんな学習をしていたなというふうな記憶がある中で学習ができるというよさもちろんある。

あと、人数も少ないのでリーダーシップも身に付けさせることもできる。1つの学年に担任が授業を行っているので、もう1つの学年は自分たちで学習を進めなければいけない。そういった面でもリーダーシップを発揮するいい面がたくさんあるのが複式学級。ただ、そういった授業づくりをするには、担任の大変な授業研究が必要になってくる。

一方、複数の学年を1人の学級担任が指導するということで、どうしても1つの学年を教えている間にもう1つの学年が自分たちで学習する時間が多くなってしまうという問題点もある。そういった問題点にならないように、担任が片方の学習をしているときに、もう1つの学習をしている担任がいない状態で学習している子供たちが、自分たちで学習ができるようにすごく準備をして授業に臨んでいる。だから担任がいなくても自分たちで学習ができている。ただ、1日6時間あって、そういった授業が全部できるかと言ったらなかなか準備ができない時間もある。やはり1人で単学級を教えている学級に比べると、どうしても自分たちだけほっとかれる時間ができてしまうというのも、やはり課題としては認識しておかなければいけないと思う。

そういった問題があったとしても、トータルで見ると小さい学校も大変すばらしい教育ができている。それは、教育委員会もしっかりと複式の授業ができるように研修会をしたり、指導主事が学校に行って複式の授業についてアドバイスをしたりして、現状でいい教育ができるように最大限努めているところ。

■参加者

いいではないですか。

□教育委員会

例えば1つの学年が1人になったとき。今はまだ2人とか3人だが、今年0人の学年が室津小はある。1人になったときに、どうしても複式の授業でその学年の子供は先生と授業をすることになる。もう1つの学年に3人いて4人の学級であったとしても、その学年は先生と一対一で授業することになる。もちろん学力はつくかと思うが、今求められている、様々な考えに触れたり、意見交換をしたり、そういった中で育つ力がなかなかつけにくい、そういった課題がある。

それから0人になったときに、1年と3年とか、6年と4年とかそういった組み合わせの複式学級になる。

複式学級の授業で、例えば図工とか体育とかの技能教科は、1・2年一緒とか、5・6年一緒とかそういった授業はできる。学習指導要領の中でも、1・2年や

3・4年で、目標や内容が括られているものがそういった授業ができる。ただ、国語とか算数とかのように系統的に学習していくものについては、やはり1年生は1年生の学習をしなければいけないし、2年生は2年生の学習をしなければいけない。一緒にできない。そういった学習をするときに、0人がもし出てきたときに、国語と算数はもちろんそうやって段階的に教えなければいけないが、体育とか音楽とかそういった授業であっても、一緒に学習することが難しくなるという点もある。

令和12年度までの人数がここに示されているが、ここから後が正直まだわからない。これからどれだけ子供が生まれてくるかにもよるが、この後1とか0が続いたときに、果たして今と同じような複式の授業、子供たちにしっかりと本当に今つけなければいけない力、多様な考えに触れて、たくさんの人と意見交換したり、自分を表現したりする、そういった力を身に付けさせようと思ったときに、なかなか1とか0が続いてくると、今後学校も難しくなってくるのではないか。今と同じような教育が実施できるのか、そういったことを考えていかなければいけないのではないかと思う。そういった面で、今から一緒に考えていきませんかという計画であるというふうに考えてもらえないか。

■参加者

1人では困るのに蓋井島に中学校を作ったのか。1人しか生徒がいないのに。

□教育委員会

蓋井島に関しては物理的に離島。もともと蓋井島には小学校があるが、中学校については吉見中に行っていた。吉見中学校に通うのは、親と離れたところで難しいところがあったが、寮を運営するのもなかなか難しい状況。そういう中で、島の中で何とか育てなければならぬのではないかとこのところがある。

室津小などのいわゆる本土にある学校と、蓋井島は環境がそもそも違うので、これは個別に対応するしかないという判断。

蓋井小中学校については、こちらの適正規模・適正配置の統廃合の組み合わせの中では今まで考える対象にはなっておらず、離島ということで個別に検討をした結果小学校を残し中学校を設けるという判断をした。

■参加者

内日小学校が小規模特認校になっているが、第四期に小規模特認校の検討をしたのか。

□教育委員会

小規模特認校については、第三期の内日の適正規模・適正配置を考える中で、あわせて運用して導入したので、今期の中では他の地域の検討はしていない。

■参加者

なぜしないのか。内日のことは教育長は良い学校だとほめていた。同じようなことをしている学校を潰して、これ以上特認校はしない。その理由がわからない。お金がないからか。なぜ小串とか宇賀を認めないのか。

□教育委員会

内日は市内の一番中心に位置しており、位置的な問題点もある。

■参加者

内日に行くバス便は今度廃止になる。交通からいったらこちらの方がはるかに便がいい。

□教育委員会

内日中学校についてはそれなりの理由があって特認校にしている状態で、現在のところそれ以外に設置する予定がない。

■参加者

本当に下関市を盛り上げたいのであれば、学校は残して特認校にして、そこに人が入ってくるのを待ってもいいのではないか。学校がなくなったら地域はおしまい。

5年前に、町内で16人の子供が他の学校に行っていたが、今年、答弁で教育長が32名が校区外の学校に行っていると言っていた。宇賀や小串が川棚にそれだけ移動するのを許しておきながら、何で逆は許さないのか。

□教育委員会

許すとか許さないとかいうものではないと思う。

実際校区外承認ということで、子供たちへの様々な配慮をもとに居住地以外の学校へ行くことを認める制度で、大きいほうに寄るというわけではない。それぞれに様々な理由があってそうした状況を考慮している。

■参加者

そもそも、資料にある「生き抜く力」とはどんな力か。

□教育委員会

下関市教育振興基本計画の中で、切り口からというところで、自分のよさや可能性を認識し、新しいものを作り出す想像力を身につけていくということで、「生き抜く力」という表現を使っている。

文章で読ませていただく。「次代を担う子供たちと権利利益の擁護を図り、最善の利益を実現し、多様な才能を伸ばすための教育を行い、生き抜く力と豊かな心を育むとともに、一人一人が学びを通じて自分のよさや可能性を認識し、新しいものを作り出す想像力を身につけていくことを求められている。」という文章になっている。ここで「生き抜く力」そのものの定義は書いていないがこういう文脈になっている。

■参加者

少し難しすぎて、この計画の目的と合致するのかわからなかった。そもそも、「生き抜く力」というのを見たときに、社会に出て生きていく力なのかなと思う。学校は「生き抜く力」を身に付けるところなのかどうか、学校は勉強するところと思っている。個人的には、「生き抜く力」は家庭や地域で育っていくものと思っている。それを学校が担おうとしていること自体が、無理があると感じている。

□教育委員会

「生き抜く力」というのが、「学力」もその中に入っており「生き抜く力」を構成している。

様々な問題に積極的に対応して活躍する「確かな学力」というのが1つ目。

それから、自らを律しつつ、他人とともに協調し、命を大切にする心や他人を思いやる子。感動する心の豊かな子。この「豊かな心」が2つ目。

それでたくましく生きるための「健やかな体」これが3つ目になっている。この3つを柱として「生き抜く力」という表現をしている。

■参加者

そうすると、学校でなくても身に付けられることばかり。それをなぜわざわざ学校統廃合までして身に付けないといけないのか。逆に、こういうものを家庭が学校に求めていること自体が間違いなのではないか。

サッカーのコーチをやっているときに「子供のしつけをお願いします。」と言われたが、それは家でやって欲しいな、サッカーの技術を教える場所なんだよというのは感じていた部分。そういったものを、保護者が学校に求めてしまっていること自体がどうなのかなと思う。これを統合して身に付ける必要があるのか。

□教育委員会

言われた意見は他でも耳にするし、思うところもあるが、下関市としてはこの「生き抜く力」を基本にして、教育振興基本計画を策定しているので、「生き抜く力」をやはり目指していきたいと考えている。

■参加者

それでは、「生き抜く力」が身に付いたかどうかは、どのようにして評価しているのか。

□教育委員会

こちらの計画の中に、確かな学力の育成であるとか豊かな心の育成であるとか主要施策というのがあり、それぞれを教育委員会の中で検証していくというような形をとっている。具体的に一人一人の子供の学力を掲げるという形ではないが、施策の成果としてPDCAという形で確認をさせていただきたいと考えている。

■参加者

PDCAで行うということは、これが間違っていたということがわかったときには、また学校を分けるということか。

□教育委員会

PDCAは個々の政策で、例えばこの学校適正規模・適正配置についても、計画の見直しというのは想定していないわけではない。人口の変化であるとか、基準の見直し等あれば、こちらの計画は見直すこととしている。

■参加者

この「計画の見直し」のところにある、宅地の造成や集合住宅。これはすぐにはできないのは誰だってわかることだと思う。それが見直しの前提になっているというのは、なかなか偏っているという気がする。

□教育委員会

学校の統廃合については皆さんの協力が必要。例えばこれまでの1期から3期までの計画にしても、すべてその期の中でその通りになったかといえば、そうではない。合意をいただきながら進めてきているので非常に時間がかかることがある。今回その3期計画の結果が変わったというのは、3期計画であれもこ

れも入れ込んでなかなか進まなかったというのを、少し現実路線に落とした形で4期計画という形で切り分けている。定期的に見直しをするように考えているので、また情勢を見て見直しをすることはあると考えている。

■参加者

下手をすると取り返しがつかないことになってしまうにもかかわらず、データ等に基づいていないというのは不安。

誰が判断するのか。例えば「生き抜く力」だったり、学力が向上しているとか、統合した結果良い方向に向かっているのか悪いのかを、誰がどのように判断するのか。

□教育委員会

施策の話になるが、教育委員会での施策については、これが適切であるかどうかということは行っている。

統合した結果、統合した学校の学力がついたかとか、例えば生徒指導上の課題がどうなったというのは、まず、それぞれの生徒指導上の視点、学力の視点があるので、それぞれで評価をする。その上でこの計画がどうかというのは、全体の施策の中で点検をしている。

もううまくいかなかったときに怖いなというところは、本当におっしゃるとおり。だからといって、統合したところをすぐに離すというのは簡単ことではない。それに関しては新たな学校として、どういう課題があって、どういうふうに学力とか、生徒指導とか、通学とかに取り組もうかというのを、学校として考えていかないといけない。

■参加者

すでに先行事例として豊北地域のたくさんの小学校中学校が統廃合している。それでは足りないので、今度、小中一貫にすること。

聞いた話では、統合されたあと豊北町の小学校が少し荒れたと聞いた。それぞれ今まで地域と関わりを持ってきた人たちが自分たちがいた地域の学校がなくなる、そして全然知らないところに行く、しかも地域から見守られずにすごく遠距離のバス通学をしないといけない。学校が荒れたというふうに聞いた。

本当に「生き抜く力」が付くのであれば、もうすでに統合した学校の児童生徒の成績が上がったのか、学校がどうなったのか、それから一番怖いのは地域がどうなったか。豊北地域、昨年度出生が1名か2名ぐらいしかなかったと思う。どんどん豊浦町あるいは別の地域に、親が子供を連れて出てきてしまっている。まさに、角を矯めて牛を殺す。学校の規模を適正にすることで地域をなくすとい

うことを。

先ほどから自分はひどい言い方をしているが、教育委員会の方は本当に気の毒だと思う。嫌な役割を押し付けられていて。だけど、やはりここは地域がしっかり声を上げて、本当にそれでいいのかというのを、市教委の先にある市全体のあり方を考えて、文句を言っていけないといけないと思う。ここで自分みたいにギャーギャー言っても始まらない。

教えてほしい。豊北がどうなったのか、確か豊北中学校が統合されたときに、生徒が1人スクールバスに乗れなくて交通事故で亡くなったという事故があったと思う。県内ではないが、学校統廃合後、小学生が自殺したという地域もある。つくば市は小中一貫をものすごく推進したあげくそれが大失敗に終わって、今後、建てる学校は小中一貫はしないと言っている。小中一貫をこの先も考えるのであれば、本当にそのプラスマイナスを私たちに提示した上で、評価を仰がないと、学力もそうだが、虚偽の説明をして意見を集めて、その結果推進したのであれば、本当に嘘をついて私たちの生き方を変えているということもある。

いっぱい言って申し訳ないが、先ほど検討委員会が案を出したと言われたが、検討委員会の名簿を見たら総合支所とかは出ていると思うが、委員の中には豊浦郡人がほとんどいなかったと思う。本当にみんなの意見を得たのか。それから1回目は討論の内容が出されていたが、2回目は非公開ということで出されていなかった。もしそうだとしたら、請求すればいいが、きちんとこういう大事な話の資料は出していただきたい。

■教育委員会

荒れたという表現をされたが、こういった状況、こういった経緯でそうなったかは把握できないが、いろいろな要因があろうかと思う。

滝部に7つの地域から、スクールバスに乗って集まっているが、今生活のリズムは整っているし、中学校との教育活動、いわゆるカリキュラムの部分も、しっかりそろえて取り組んでいる。

それぞれに小さい学校の良さ、大きい学校の良さはお伝えしたが、この会自体が、様々なご意見をいただいてこれから進めていこうというものなので、絶対にこういうふうに進めていくというものではない。意見を様々な伺いながら、これからの動きについても検討していくし、こちらも提供していきたいと思っている。

決してマイナスばかりではない。プラス面もマイナス面ある。しっかり把握して分析した上で、学校づくりを一緒になってやっていこうと思う。

検討委員会の委員の中に豊浦の人がいないとのことだが、検討委員会の委員に関しては、地域に寄せることはしていない。大人数での議論は限りがあるので、検討委員会の委員は13名。学識経験者が3名、教育機関の職員ということで

小中学校の教員が4名、保護者代表ということで幼小中のPTA会長・役員3名、連合自治会から1名、公募の委員が2名で13名。地域それぞれという形よりも、分野を区分しての人選と公募。

検討委員会の議論は、4期計画については3回実施している。1回目2回目についてはホームページで公表をしている。3回目については、審議の内容が統合の組み合わせの部分で、非常にデリケートな話で、公表を前提に審議をするとすると自由な意見が出しにくくなるという配慮があるので、非公開で率直な意見をとということで実施した。第3回については、非公開という扱いをさせていただく。

□参加者

子供が少なくなるからという理由で統合しようという話が出ているが、逆に子供を増やそうという機関はないのか。地域に子供世帯を呼び寄せようとか、そういう計画というのは市の方ではないのか。

生徒がゼロになったときに複式が難しいというのはすごくよくわかった。しかし自分は中学校で支援員をしているが、やはり少人数の方が声が届く。だから複式も複式でいいところがあるというのはわかっているのに、そういう理由を突き詰めていったら答えは出ないと思う。

逆に子供を増やそうか、そういう何か取り組みをしている機関があれば教えていただきたい。

□教育委員会

市は部局でいうと、子供の出生とか子育てということになるとこども未来部というのがあり、現在の下関市では、最重要施策のところで子供子育てというのが出ており、そちらの方でいろいろな子育ての対策もしているし、また教育委員会でも子供施策の一環として、いろいろなことに取り組んでいる。教育委員会は教育が中心になるが、子育てということになればこども未来部。それから、例えば市外から下関市に住んで欲しいということになったら、UターンIターンで言うともた別の部があって、様々人口を増やす取り組みをしているところである。

■参加者

機関はそういうふうに各々して、連携はされていないということを感じてしまう。今こういう適正規模・適正配置を考えようというところで、見直しているところに、逆に大型施設の誘致に動いている機関があれば紹介していただければ、町を挙げてそういう人たちが誘致する活動も、これだけ意識の高い方々がいれば、そういう活動にすごく結びつくのではないかなと思うので、それでもやは

り少し難しいとなれば、きっと皆さんもいろいろ選択されると思うので、やはりこれしかないよと言われると苦しいなと思うので、やはり、逃げ道というような話もあえて聞きたいなと思うので、何かそういったところの情報もあれば教えていただきたい。

□教育委員会

学校を減らしたいわけでも、子供が減っているのも仕方ないと思っているわけでもないの、そこは他の部局と連携してやっていきたいと思っている。ただ役所縦割りというのをよく言われるが、こちらは教育をやっている、向こうは子育てをやっているということで連携ができていないというふうに見られるのは事実で、実はその庁内ではそういったものを連携するとか、教育委員会とこども未来部だけではない、例えば福祉部とか保健部とか、いろいろな部局で見落とさないように、いろいろな事業を1つの表に落として、政策がうまく回っているかを点検しているので、できるだけそういった内容を発信していったり、連携をもっと図ったりしていきたい。

先ほど、特認校については適正配置とは別と申し上げたが、内日の特認校については、小中一貫校になると同時に特認校にしたという経緯があるので、別だということは発言誤りだった。お詫びして訂正する。

■参加者

パブリックコメントの期限について、7月31日までになっている。ところが小串の説明が24日。それが終わってパブリックコメントが31日までというのはあまりにもひどいのではないかなと思う。ホームページを変えて延ばすようにとは言わないが、31日を過ぎてパブリックコメントを出した方も受け付けて欲しいと思うが、そのあたりはどうか。

自分は事前に市のホームページの資料等を見て勉強してきているが、ほとんどの人が初めて聞く話だと思う。それでコメントを出したいと思った人がいたときに、24日にこうした説明会があって、31日で締め切りというのは、何も考えていないのではないかなと思う。ホームページを変えろとは言わないので、パブリックコメントがあったら受け付けて欲しいというお願い。

□教育委員会

考え方として、パブリックコメントは全市民向けに一斉に同じ条件でやっている。それについては、市役所、教育センター、図書館、支所等に、紙とボックスと資料、そしてホームページで同じ条件でしており、それはそれでパブリックコメントという市民との合意形成の手続きとしてやっている。

説明会については、全校区でやっているわけではなく、全部で10ヶ所。今回の案の中で影響の強い地域を、過去の3期計画までの説明会をした会場を踏まえて10ヶ所とした。順番にやっていくので、今回極端に言うと豊北は月末になってしまうが、特にこの地域での説明が必要と考えている部分である。パブリックコメントは今月の頭から同じ状況でしているので、パブリックコメントのための説明会をやっているというよりは、地元等に特に影響がある部分ということで行っていることを理解していただくのと、期限を一応切っているが、例えば8月1日に届いたからこれはなしというような四角四面では思っていない。整理する中で、パブリックコメントの書面やメールが届いた分についてはかき集めたいと思っているし、パブリックコメントでないとしても、今日も意見いただける紙を配布しているが、地元の方の意見を聞くというところなので、これも教育委員会としても把握をしていきたい。

■参加者

統合したときに室津が誠意に来て、誠意は残るのか。統合したら、関工も変わったし、どこどこも変わったらしいし、誠意という名は残るのか。

□教育委員会

過去の説明会の中で、誠意小というのは地域の名前ではなく、その名前の通り誠意という言葉だという強い思いがあって、この学校の名前になっているという話は承知している。

仮に統合するとなれば、統合校をどういう学校にするのかという議論を、地域、保護者を合わせて話し合っていただくことになる。その最初に議論するところは、学校の名前をどうするかということがあると思う。例えば2校が統合するとなると、それぞれ2校に歴史がある、地域の思いもあるので、それに関しては相互の地域で話し合っ、新しい学校の名前をどうするかという議論をして決めていくというのが、今まで統合した地域の学校の事例。教育委員会で決めるという話ではないので、話し合いには参加するが、地域で最終的に決めていただく。

■参加者

誠意という言葉の意味があるから言霊。誠意という、漢字の誠意をつけて欲しい。下関工業は中央工業と一緒にあったのに、なぜまた一緒になったら下関工科なのか不思議でたまらない。

とにかく言霊という言葉の意味で考えて、室津がどうのこうのと言うわけではないが、誠意という言葉を大切にしたいというそれが言いたかった。

□教育委員会

気持ちは十分伝わったが、地域でどういう名前にするかという結果なのだと思う。誠意小の関係者が話し合いの場所で、誠意というのを十分説明、主張して、どういう名前がつくかというのは話し合いになる。必ず、開校に向けた準備・調整があって、名前の話もあるし、校歌、学校のシンボルである校章、制服とか体操服、かばん等、そういったところも学校で違うので、そういったところをやっていく。それはあくまで統合するという方向に向かっていったときなので、まずは統合に向けて、地域で話し合いをさせていただいて、地域として統合しようという確認がでたら次のステップ。それができなければ、教育委員会で進めるという話ではない。統合の話は第 1 期から、ずっと話をしているが、まだ統合については十分認めていただけていないので、この 4 期計画までの話になっている。地域の皆様が納得されたという確認ができなければ、その先の統合をどうするかという議論はない。

■参加者

吉見はどうやって名前を決めたのか。まだ名前は決まっていないのか。

□教育委員会

吉見小と吉母小の統合、それから中学校との小中一貫についてこの 4 月に新しい学校として開校した。

これにあたっては吉見と吉母の地域の皆様と議論をして、それぞれの関係者、PTA、学校運営協議会、自治会の連名で統合に同意するという書面をいただいて、開校の準備に向けた議論を進めた。

■参加者

吉見小学校か。

□教育委員会

小中一貫校といっても、小学校と中学校で 1 つの学校というわけではない。小学校と中学校があるということには変わりはない。それぞれに校長先生がいる。それを一貫教育の学校という位置付けをして、吉見小学校と吉見中学校という、それぞれの小学校、中学校、これを 2 つ合わせたときに、よしみ小中学校ということばを使っている。

■参加者

4 つほど聞きたい。

今日来られなかった地域の方々が、今日の話し合い、例えば小規模校にすることによってメリットがあるわけではないにもかかわらず、教育委員会が学校統廃合を進めようとしているとか、そういうのは地域の方にとってはわからないことだと思う。今日の内容を録音していると思うが、来られなかった方々が目にする可能性とか、議事録を読むことができるか。が1点。

スクールバスをもし運営するのであれば、少なくとも説明会で聞くとときに、室津とか宇賀とか小串は、図面に学校がここにあって4キロであればそこが入るかかどうかというのは地域の人に当然情報として伝えるべきでないか。全く地図もなく口頭で4キロと言われて、小串の方がうちは入るのかなと思っていたら入っていなかったとかいう、やはりきちんとした情報を伝えていただきたい。

それから、川棚で何で説明会がないのかと言われたが、もし川棚が統合したときに3校統合になるので、学校名が変わるとか、校歌も変わるというのであれば、やはり川棚の意見をきちんと聞く機会を持つべきだと思う。それから、小串と宇賀の説明会では、川棚が水害の浸水地域にあるということ、それから、川棚小学校の入り口が坂になっていてすごく危険だということ、もしも災害が起きたときに保護者が迎えに行くとしたら大混乱になるということをきちんと説明した上で統廃合するということをするべきだと思う。この件では、後から指摘されて統廃合がひっくり返ったところもある。誠意について言えば、室津小学校の方が学校の設備がはるかに良い。誠意小学校のトイレは何年も臭いまま放置されている。お金がないのでということで、そういうのもきちんと室津は説明していただきたい。誠意のトイレは臭い。

それから、跡地利用について今日あまり出なかったが、角島地区の小学校は跡地利用が何千万円かかけないとトイレがきちんと繋がらないからということでもう十年近くほったらかしになっていると思う。統廃合されたら跡地がすごくいいように使えるような印象はせずに、お金がないから跡地利用はあまりできていないっていうのもきちんとやっていただきたい。

□教育委員会

今回の地元説明会の内容については、その一言一句をそのまま再現した形ではないが、まとめて整理した形での概要をホームページに掲載する。各会場分、ホームページへの掲載を考えている。整理の仕方と出せるタイミングは考えていると思っている。日付を決めているわけではない。

スクールバスの図面の部分を示すことについては、次の会場が明後日だが、すぐに市の資料が整うかどうかについては、ここで約束はできないので、意見として伺いたいと思う。

川棚小学校区についてのご意見も、最初にご意見いただいた部分は、今まで、

答えられていなかったところなので、こちらも真摯に受けとめたい。たちまちいつ川棚でどうこうというのはここでは言えないが、十分留意していきたい。

それから川棚小学校が浸水想定区域の話があった。学校については多くの避難場所になっている。こちらの避難場所としての機能確保というのも大事なことである。重要な指摘だと思うので、こちらの方についても認識しておかないといけないと思う。

■参加者

これは5年前の懇談会でも出ている。そのときに聞いておくと言ってこの状態なので、聞いていない。災害対策の部局に危機を聞いておくと言って5年前の説明会でも出ている、やはりそのまま。

□教育委員会

浸水想定については、確実に対策する。

トイレの問題については、各学校トイレが老朽化して、確かに臭いという話もよくあるので、これも計画的に全市的に順番に解消等を行っていったところ。

最後は跡地利用の話。角島小学校については、利活用ができていない状態。先ほどのトイレの問題もそうだが、現在使っている学校に予算を使っていけないといけないので、廃校にどんどん振り分けていくということは現実できないというふうに考えている。どちらかといえば跡地利用ということになれば、跡地に何か有効な活用策を誘致してくるというのが大事だと思っているが、これについては豊北の方になるが、例えばその学校の跡地をどのように活用していくかということで、民間業者の意見を聞くサウンディング調査というようなこともやっているが、多分その学校が古くて面積も大きいというのがネックになって進めないところ。

例えば室津小学校は程度がよい建物になるので、何か民間活用であるとか公共用であるとか活用して、学校がなくなった後の地域の核として活用できるような事例みたいなものが提案できればいいかなというふうには思っている。

■参加者

自分は黒井の人間。室津の人と交流が昔あったが、室津小学校ができるときには、最後は老人ホームにできるようにしようという話をした経緯がある。もう少し活用方法が絶対あると思うと、そう言ってみんな感じた。

■参加者

今日、この用紙をもらったが、これをどう提出するのか。パブリックコメントで総合支所に行って用紙をもらってきたが、この用紙だとFAXとかいろいろな方法で教育委員会に送れるが、今日はどうしてこの用紙が出ないのか。

それと室津小学校は、今の予定では青少年の家っていうのが、そういったようなことが上がってはいる。

□教育委員会

本日お配りしている意見用紙については、基本的に回収させていただくつもりでお配りをしているが、そのような時間が本日ないのであれば、違う形での意見は承るし、ホームページ上でパブリックコメントをやっているのも、その中で意見という形でも構わないし、どういう形でも回収したものと同様に整理をしていきたい。

室津小学校が青年の家になるという話だが、教育委員会の発案というよりも、全市的に公共施設マネジメントの一環として、公共施設の適正配置に関する方向性という、例えばこういう公共施設をこのようにしていったらどうかという提案がまとまっており、その中で旧市内に青年の家という施設があり大変老朽化しているので、例えば室津小学校がもし仮に統廃合になったら、その跡地を利用してそこに青少年教育施設を入れたらどうだろうかという提案がされている。これについてはアイデアの1つであって、まだ決定したものではない。そういう考え方もあるというふうに理解いただきたい。

■参加者

統廃合の話し合いをするときに、どういうメンバーを選ぶかということで、自治会長とかになると、どうしても今日のメンバーを見てもそうだが男性がすごく多くなってしまう。それと、子供の意見を聞くという議会答弁をしていると思うが、8月中に聞いておかないと9月の会議に間に合わないと思う。きちんと議会答弁したことなので、子供の意見を聞いていただきたい。

■参加者

統廃合に向けてスタートから統廃合のゴールまでであると思うが、現状はその1合目から10合目まであったら、そのどれぐらいの位置か。

□教育委員会

今回話をしているのは、適正規模・適正配置の基本計画ということで、教育委員会として、こういう取組を基本的に考えているという計画。1期計画から始ま

って、今回 4 期計画。各計画期間の中で、それぞれ検討したものの結果を提案させていただいている。これはあくまで基本計画で実施という話ではない。5 年計画で 11 年度までの計画で、これを目指しているのは間違いないが、令和 11 年になったら、タイムリミットで実施するという性質のものではない。地元の皆さんと話し合いをした結果、先に進むということであれば、初めて前に進むということ。今の案は、計画の案の状態なので、それからいくと実はまだスタートラインに立っていない。今回の計画期間においてはそういったところ。それを示したところで、議論が進んで、それで統合を迎えようとなっても、今までの他の事例で言うと、開校に向けた準備までに最低でも 2 年はかかると思う。

■参加者

こういった様子はオンラインで配信したほうがいいのではないかと感じるが、どうか

□教育委員会

今回用意していないが、それについて意見として承りたい。